



## 迷う

先日、3年生の女子から突然進路相談を依頼された。担任はしていないが、授業を担当していたのでよく知っている生徒であるが、この時期の進路相談ということで、なかなか難しい問題であった。具体的にいうと、「自分のやりたいことが直接やれるのは専門学校なので、やはり専門学校に行ってみたい」という内容である。その話を聞いて私が先ず思ったのは、センターの結果が思わしくなくて弱気になったのではないか？ということだが、A判定とまではいかないものの、十分に合格の可能性のある結果だったという。ちなみに、その生徒はなかなかデキル生徒で、私は医学部を受験するものだとして勝手に勘違いしていたのだが、目指しているのはいわゆる家政系とのことである。

色々な人の意見が聞きたい（話したい…）ということらしいが、だからこそ、逆に余計なことは言えないのである。これまで担任が（保護者も交えて）十分に進路については面談を重ねてきたはずだから、この時期に横から変なアドバイスをすると、かえって生徒を混乱させることにもなりかねないからである。そこで、話したいことがあれば聞きましょう…というスタンスで相談に応じた。

＊

一般論として、日比谷にいて専門学校に…というと、保護者の方にも抵抗感があるに違いない。専門学校がど～のこ～のということではなく、やはり「日比谷」だからである。

ただし、私が以前に担任をした学年からも

専門学校へ進学した生徒はいる。パティシエを目指すという明確な目標を持っていたその生徒は、迷うことなく大阪にある専門学校に進学した。Facebookなどを覗いてみると、充実した毎日を送っているようだ。明確な目的意識を持ち、しっかりと情報を集めて学校を選べば、専門学校は魅力的な存在でもある。（逆に、明確な目的がないまま進学するのはよくない）

＊

さて、どうアドバイスしたかというところ、

- 1 自分はきっちり納得できているのか。
- 2 周囲（保護者・担任）を説得できるのか。
- 3 本当に明確な目的意識があり、学校も具体的に調べてあるのか（迷うならダメ）。
- 4 大学に行くと今以上に世界が広がり、自分のやりたいことに向けての新しい展望が開ける可能性が大いにある。
- 5 迷っている時間があつたらとりあえず結果を出し、その上で考えたらどうか。

といったところである。この時期の進路変更はよい結果を生まない場合が多いので、とりあえず目標クリアという前向きな考え方を勧め、同時に、大学の同じ学部・学科には似たような考え方や同じような夢を持った友だちが集まるから、そこから新たな展望が広がったり深まったりする可能性があるということを再確認させたわけである。

＊

こんな風に3年生でも迷うのだ。進路は簡単には決まらない。だからこそ……だね。